

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成熟
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2018年
10月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい!!

頭の良い子は「〇〇」で育つ!

～さて、〇〇とは何でしょうか?～



先月のMAC NEWSで、結果が出る子と出ない子（成績の良い子とそうでない子）の差は生まれつきでは無く、勉強の「量」と「質」だということをまとめました。

今回もそれに通ずる部分がありますが、

頭の良い子は「〇〇」で育つ!

さて、〇〇の部分には何が入るのでしょうか?



頭のいい子は「習慣」で育つ
(河端真一 ダイアモンド社)

46年間教育の業界で活躍され、3万人を指導してきた河端氏が出した答え、それは「習慣」です。河端氏は著書の中にこう書かれています。

『一つ確実に言えることは、どんな子でも、「習慣」や「環境」によって、
勉強が出来る子や、頭のいい子に変わる』

片手間でやらせず、一点集中させる

MACのある中学生が、「むっちゃ勉強してるけど、結果がなかなか出ないです」と話していました。親御さんに聞いても、たしかに長時間机に向かってはいるようです。

しかし、じっくり話を聞くとその原因が分かってきました。彼の勉強は「マルチタスク」だったのです。

マルチタスクとはもともとIT用語で「二つ以上の作業を同時に進行する」という意味です。勉強で言えば、「食事を取りながら単語帳を広げる」「ソファでくつろぎながら参考書をぱらぱらめくる」などが挙げられます。

これらは一見、すき間時間を使って効率的に勉強しているように思えますが、一点集中せず、片手間であることからあまり身にはつかないのです。

彼の場合は「勉強しながら、LINEの返信をしている」という、マルチタスクにもなっていないような状態でした。彼曰く「基本的にはちゃんと勉強していて、携帯が鳴ったらそれに返信して、それからまたすぐに勉強に集中している」とのことでしたが、先月号のMAC NEWSにも書いたように、彼は明らかに「勉強の質」が悪いのです。

彼には「マルチタスク」に関する本の抜粋を読んでもらい、「先生だけでなく、専門家がその勉強法はダメって言っているのだから、すぐに辞めないと長時間の勉強が無駄になるよ」という話をし、勉強の際は携帯が気にならないよう、離れた所に置くように約束しました。（その後、彼の勉強の質は向上したのでしょうか・・・？）

河端氏は保護者に気をつけて欲しいこととして、「子どもが集中している時には、なるべくそれを邪魔しない」ことを挙げられています。

例えば子どもが勉強に集中している時に「お風呂に入ってよ～」「ご飯できたから、冷めないうちに早く食べなさい」と水を差していることはありませんか？このように、悪気はなしに家族が邪魔をしている場合もあるのです。声をかける前に、子どもの様子を暖かく見守る優しさが必要だと書かれています。

「効率」ばかりを求めてはいけない

今の時代は何かと「効率的」を求められます。ボタンを押すだけで機械が望むことをしてくれますし、スマホ一つで離れた場所の照明や冷暖房をON・OFFできる時代なので、仕方ありません。

しかし、勉強はそうはいきません。

『^{いへんさんぜつ}章編三絶』という言葉をご存じですか。

孔子が竹で出来た書物を繰り返し読み、閉じていたひもが何度も切れてしまったという中国の故事に由来しています。今の子どもたちにも、孔子のように一冊の参考書をボロボロになるほどに読み込む経験をさせてあげるべきなのです。

今の子どもたちは豊かな時代に生まれたため、何冊も参考書を買ってもらえますし、その参考書の中から「いいとこ取り」すれば要領よく学習できている気になりますが、これこそマルチタスクと同じです。逆に言えば「一冊の参考書すら読み込めない」のであれば、勉強したつもりになっているだけで、どの参考書の内容も中途半端にしか身につけていないと言えるのです。

「一つのこと（もの）に絞りきれず、あれこれと手を出してしまう」

もし我が子がそうだと感じられたら、それは保護者の影響が大きいと河端氏は書かれています。

世に溢れる情報に惑わされ、あっちへ行ったりこっちへ行ったり、あれが良いと聞くと、まだ使える物があっても新しい物を買って求める・・・。そんな親の姿を子どもは見えていないでしょうか？親が悪い見本にならぬよう、周りの情報に振り回されず、信念をもった行動をできるように心がけたいです（私自身も・・・）。ちなみに、ママ友の噂話は伝言ゲームのようにどんどん元の話からかけ離れていくことが多いので要注意ですよ（笑）

MACの小学部では、小4以上は算数の文章題のテキストに取り組むのですが、ポリ

ユーム的には半年くらいで終わられる量に設定しています。そしてそれを解き終わったら別のテキストに移るのではなく、同じテキストにもう一度取り組みます。進むのが早い子は二度目も終わることがあるので、その場合は三度目に取り組むのです。

「三度も同じテキストに取り組んで意味あるの？」

と思われるかもしれませんが、三度目でも間違う問題は出てきます。生徒たちには、

「二度目、三度目でも間違っている問題は自分が間違えやすい傾向の問題だから、しっかりと復習するようにしよう。そうすれば完璧になるよ」

と伝えていきます。

MACの卒塾生で、公立高校に進学し、塾には通わず自学自習だけで国立大学に合格した子がいるのですが、その子にどんな勉強法で合格したのか聞くと、

「あれこれ取り組まず、自分が出来そうな薄めの参考書を2冊だけ選んで、あとはそれをはじめから最後まで何度も勉強しました」

と言っていました。

出題される範囲が決められている学校の定期テストであれば、少しでも高い点を取るための効率の良い勉強はできると思います。しかしそれは、「限られた範囲の知識を効率良く詰め込んだ」だけなので、本当の自分の力にはなっていないのです。

出題範囲が限られないような、本当の実力を試される入試、そしてその後の長い長い人生で戦うためには、効率ではない、地道な「韋編三絶」の勉強が必要になるのです。MACではそれを意識して、日々指導にあたっています。

まずは聞くこと、できていますか？

人間には耳が二つあり、口が一つしかありません。ですが、多くの人は耳より口の方

が良く動きます。つまり、人の話を聞くよりも、自分が話すことの方が熱心になってしまふのです。

大切なのは「話すよりも聞く」ことです。バランスとしては、3分の2は話を聞くことに注力するのが良いとされています。

特に子どもは人の話を聞かず、自分の話したいことを話しがちです。しかし、自分の話を聞いて欲しければ、まず相手の話をよく聞くようにしなければなりません。（これは大人の社会でも同じですよ）

さて、ご家庭では子どもの話を聞くのが3分の2を占めていますか？

子どもの話に耳を傾けず、「なんでそんなこともできないの？」「こうした方がいいでしょ」「早く〇〇してよ～」と一方的に話していないでしょうか？

子どもの話すことは100%本心かどうかはわかりませんが、言い訳やウソが含まれることもあるでしょう。しかし、それも含めて話をしっかり聞いてあげる、そして信じてあげることが重要です。信じてもらえれば、自分は大切にされていると感じ、大人を信頼するようになります。たまに、

「うちは親が忙しいから話す時間が無い」

「どうせ何を言っても、信じてもらえへん（聞いてもらえへん）」

と口にする子がいます。その反動でか、塾で話したいことをマシンガンのようにずーっと話してくる子もいます。（おうちで話したいけど聞いてもらえないから、ここで話しているのかな～、と思いながら、授業に支障のない範囲で話を聞くようにしていますが）

もし『うちの子は、自分のことを話そうとしません』とお考えの方は、そのような状況を親が作っていないかどうかを一度考えてみてください。こどもは親が大好きですし、本来は学校であったことなどをたくさん話したいのです。そうすることが精神的安定にもつながり、ひいては成績向上にも繋がります。

我が子に言う事を聞かせたい時は、まず我が子の話を聞く事から始めてみませんか。

人の話を、しっかり聞けていますか？

みなさんは日頃、友だちやおうちの人のお話をしっかり聞けていますか。
人の話を聞かない人は、人に話を聞いてもらえませんよ。

耳は二つで、口は一つの意味は・・・？

みなさんの顔には二つの耳と、一つの口があります。なぜ耳の方が多いのでしょうか？それは「自分のことばかり話すのではなく、人の話は自分が話す倍聞きましょう」ということなのです。

「〇〇くん（ちゃん）、私の言うことちっとも聞いてくれない！！」

なんてことはありませんか？そんな時は自分自身がその人の話をしっかり聞けているか、振り返ってみましょう。

人の話を聞かず、自分の言いたいことばかりを話す人は、人に信頼されません。自分が話すのを少し控えて、相手の話に耳を傾けるのです。

人の話を聞ける人は、人から信頼されるようになります。

自分の言うことを聞いて欲しいと思うのなら、まずは人の話をしっかり聞くことから始めてみましょう。



「頭のいい子は習慣で育つ」

河端 真一 ～3万人を指導してきた学院長～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。